

令和6年度

施策評価表(令和6年度の実績評価)

記入年月日

令和 7 年 6 月 24 日

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	生活環境課	主管課長名	
5-7	施策名	廃棄物の抑制と適切な処理	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
・市民 ・市内で発生した廃棄物(ごみ・し尿)	①桜川市人口	人	見込値	37,653	37,269	36,885	36,500	35,897
			実績値	37,653	36,794	36,120		
	②市内のごみ総排出量(事業所分を除く)	t	見込値	9,807	10,148	10,148	10,148	10,148
			実績値	13,173	11,138	11,150		
	③し尿処理量	t	見込値	14,154	14,058	13,964	13,868	13,772
			実績値	13,434	15,021	14,872		
施策の意図	成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
ごみの発生が抑制され、適正な処理が行われている。	①1人1日当たりのごみ排出量	g	目標値	780.0	770.0	760.0	750.0	740.0
			実績値	638.0	666.0	676.0		
	②資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)	%	目標値	8.4	8.1	8.5	8.9	10.0
			実績値	5.9	7.0	6.6		
	③可燃ごみの搬入量	t	目標値	8,350.0	8,300.0	8,250.0	8,200.0	8,000.0
			実績値	8,884.5	9,107.0	9,182.0		
④不燃ごみの搬入量	t	目標値	389	389	376	363	350	
		実績値	366.2	350	298			
⑤資源ごみの収集量	t	目標値	822	826	867	908	950	
		実績値	772	783	735			
成果指標設定の考え方	○ごみの発生が抑制されるのは、①「市民1人当たりのごみ排出量」が減れば、ゴミの減量化につながると考えた。 ○適正に処理が行われることについては、②資源物比率、③④可燃・不燃ごみの搬入量、⑤資源ごみの収集量で把握する。							
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○対象の「市内のごみ総排出量」は、事業所から排出されたもの(事業系一般廃棄物)は除いている。 ○ごみの発生を抑制していく意図の経年変化を見るために、成果指標を1人1日当たりのごみの排出量(市内のごみ総排出量/計画人口)とした。 ○適正処理については、資源物比率を見ることで把握する。 ○可燃、不燃ごみの搬入量は環境センターへの搬入量 ※①桜川市人口以外は、前年度実績の数値となっている。一般廃棄物処理事業実態調査の数値							

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した
背景要因	○1人1日当たりのごみ排出量は、令和5年度(令和4年度実績)が666.0g、令和6年度(令和5年度実績)は676.0gで、前年度と比べ10g増加し成果が低下している。 ○資源物比率は、令和5年度(令和4年度実績)が7.0%、令和6年度(令和5年度実績)は6.6%で0.4ポイント減少しており成果が低下している。 ○可燃ごみ搬入量は、令和5年度(令和4年度実績)が9,107t、令和6年度(令和5年度実績)は9,182tで、前年度と比べ75t増加しており成果が低下している。 ○不燃ごみ搬入量は、令和5年度(令和4年度実績)が350t、令和6年度(令和5年度実績)は298tで、前年度と比べ52t減少しており成果が向上している。 ○資源ごみの収集量は、令和5年度(令和4年度実績)が783t、令和6年度(令和5年度実績)は735tと、48t減少しており成果が低下している。 不燃ごみ搬入量以外は、成果が低下しており、全体的にごみの排出量が増加している。	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った <input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った <input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
背景要因	○1人1日当たりのごみ排出量は、目標値760.0gに対し、676.0gで84.0g目標値を上回った。 ○資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)は、目標値8.5%に対し、6.6%で、1.9ポイント目標値を下回った。 ○可燃ごみ搬入量は、目標値8,250.0tに対し、9,182.0tで932t目標値を下回った。 ○不燃ごみ搬入量は、目標値376tに対し、298tで78t目標値を上回った。 ○資源ごみの収集量は、目標値867tに対し、735tで132t目標値を下回った。 成果目標の達成状況については、1人1日当たりのごみ排出量、不燃ごみ搬入量で目標値を上回ったが、他3つの項目で目標値を下回ったことが重視されることから「一部の成果指標で目標値を下回った」と評価した。	

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
・粗大ごみ処理処分事業について、布団・木製品と鉄類・廃プラ等で分けて行うことで、より多くの処分ができた。 ・資源ごみ分別収集事業について、市民一人ひとりが、資源ごみと可燃ごみの分別の意識が低いと思われる。	・広報やイベント等を通じて積極的に啓発を行い、ごみ減量化を促すとともに、リサイクル製品を細かに分別する取組を展開する。 ・プラスチックの資源循環の取り組みを促進するため、筑西広域市町村圏事務組合を構成する結城市・筑西市・桜川市の3市において、令和8年度中を目途にプラスチックごみの分別収集事業を実施することに併せ、市民向け説明会などを実施し、プラスチック廃棄物の排出抑制や再資源化に対する意識の向上に繋がっていく。